

人とともに 地域とともに 島根大学

*shimadai



広報しまだい
Shimane University



【特集】しまだいの今
金属産業の聖地・
島根を目指して

vol. 40
shimadai 2019.4

【特集】島大発ナノテクベンチャー

先端金属材料の聖地・島根を目指す

地方大学・地域産業創成交付金事業採択



島根大学も参画する新たなプロジェクトが始動しました。5年間の事業期間中に、島根の地で継承されている特殊鋼や金属に関する研究を発展させ、地域産業の活性化を図ることを目的としています。

金属材料分野における世界最高水準の教育・研究拠点へ

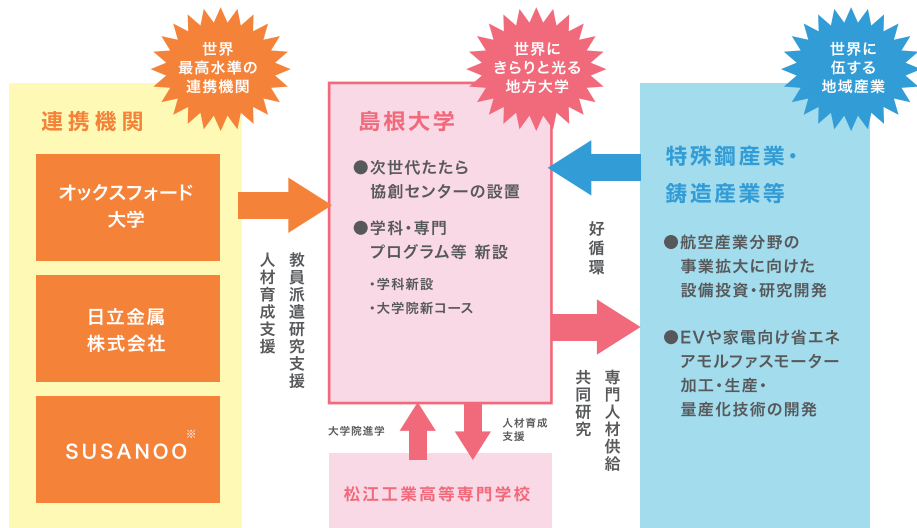
2018年10月、島根大学が参画し、島根県が申請した内閣府「地方大学・地域産業創成交付金事業」に「先端金属材料グローバル拠点の創出・Next Generation TATARA Project-」が採択されました。このプロジェクトでは、島根県の基幹産業である「たたら製鉄」の伝統を受け継ぐ特殊鋼関連産業及び金属材料に関連する研究を

vol.40 CONTENTS

- 留学生・留学体験紹介 09
- 島根大学の研究・地域貢献事業紹介
- ①法文学部 浜田 幸絵 准教授 11
- ②教育学部 塚田 真也 准教授 13
- ③生物資源科学部 上野 誠 教授 15
- しまだいの島根のまち 17

- 社会で活躍する卒業生
- 島根大学医学部附属病院 坪倉早季子 さん 19
- しまだいの便り 21
- しまだいのサークル 24
- 島根大学支援基金より 25
- 読者プレゼント 25

企画・制作
株式会社メリット
デザイン
有限会社node
タイトルロゴデザイン
松陽印刷所デザイン室 森脇 祥吾



※SUSANOO…島根県の特殊鋼関連会社企業グループ



発展させることで、島根県を『先端金属素材の聖地』としていくことを目指しています。

島根大学が担う役割は、金属材料分野における高度な人材の育成と世界最高水準の研究拠点づくりを行うことです。これにより県内就職率の向上や研究成果の還元を進め、特殊鋼産業を核とした地域産業の活性化を図ります。

2018年11月には、プロジェクトの中核を担う共同研究所として「次世代たたら協創センター」を立ち上げました。センターの名称は、島根の地において継承され、日本刀材料である玉鋼を供給し続けている伝統的製鉄法の「たたら

製鉄」に因んで名づけられました。センター内には「航空機産業プロジェクト推進部門」、「モーター産業プロジェクト推進部門」、「基盤研究推進部門」、「人材育成プロジェクト」の四部門を設置。各部門にはリーダーとなる教員が配置され研究を推進するほか、オックスフォード大学や東京工業大学など国内外の研究機関・大学、地域企業と連携します。航空機産業やモーター産業などの最先端・成長産業への展開を加速させることで、国際研究拠点とする計画となっています。

2月23日には、センターの開設を記念したキックオフセミナーを開催。冒頭の挨拶で服部学長は「金属関連分野の研究と人材育成を通して、キラリと光る国内唯一無二の大学となることを目指します」と述べ、プロジェクトに対する意欲を語りました。

この取り組みを通じて、航空機産業・モーター産業に関心を持つ学生が島根大学に集まり、島根の産業を牽引してくれることを目指し、地域産業活性化に貢献します。

人とともに 地域とともに 島根大学

*shimadai

広報しまだい
Shimane University

2019.4 vol.40

【特集1】

しまだいの今

- 1.地方大学・地域産業創成交付金事業 …… 01
- 2.島大発ナノテクベンチャー …… 03
- 3.自然災害軽減教育研究センター …… 05

【特集2】

- 学生による図書館コンシェルジュ …… 07

NEWS.2

島大発ナノテクベンチャー「エスナノテク・コ・クリエーション」設立

研究成果を実用化、島根から技術革新を発信

島根大学のナノテクプロジェクト

センターの研究成果の実用化を

目指すナノテクベンチャー「株式

会社S-Nanotech Co-Creation

(エスナノテク・コ・クリエーショ

ン)」(以下SNCC)が島根大学

内に設置されました。代表を務

める総合理工学部の藤田恭久教

授にお話をうかがいました。

島根大学の研究技術を
ニーズに基づき産業化

物質は分子や結晶などのナノ

メートル(100万分の1ミリ

メートル)程度の構造を持つてお

り、これらを制御するナノテクノ

ロジーによって、ものづくりの世界

に新しい機能や付加価値を与え

ることができず。昨年10月に

設立されたSNCCは、島根大

学のナノテクプロジェクトから生



陰合同銀行などで作る「しまね

大学発・産学連携ファンド」から

も評価を受け、2億円の出資を

受けました。社名の由来は「島根

のナノテク共創」。異なる専門分

野の人が集まって一緒に新しい価

値を見出し、地域からイノベー

ションを発信することが狙い」と

藤田教授が説明します。

島根大学では2004年にナ

ノテクプロジェクトを立ち上げ、安

心、安全、低コスト、簡易技術を

特徴とするナノテクをテーマに、

様々な専門分野の教員が連携し

ながら、独自のシーズを生み出し

てきました。2012年にナノテ

クプロジェクトセンターを設立し、

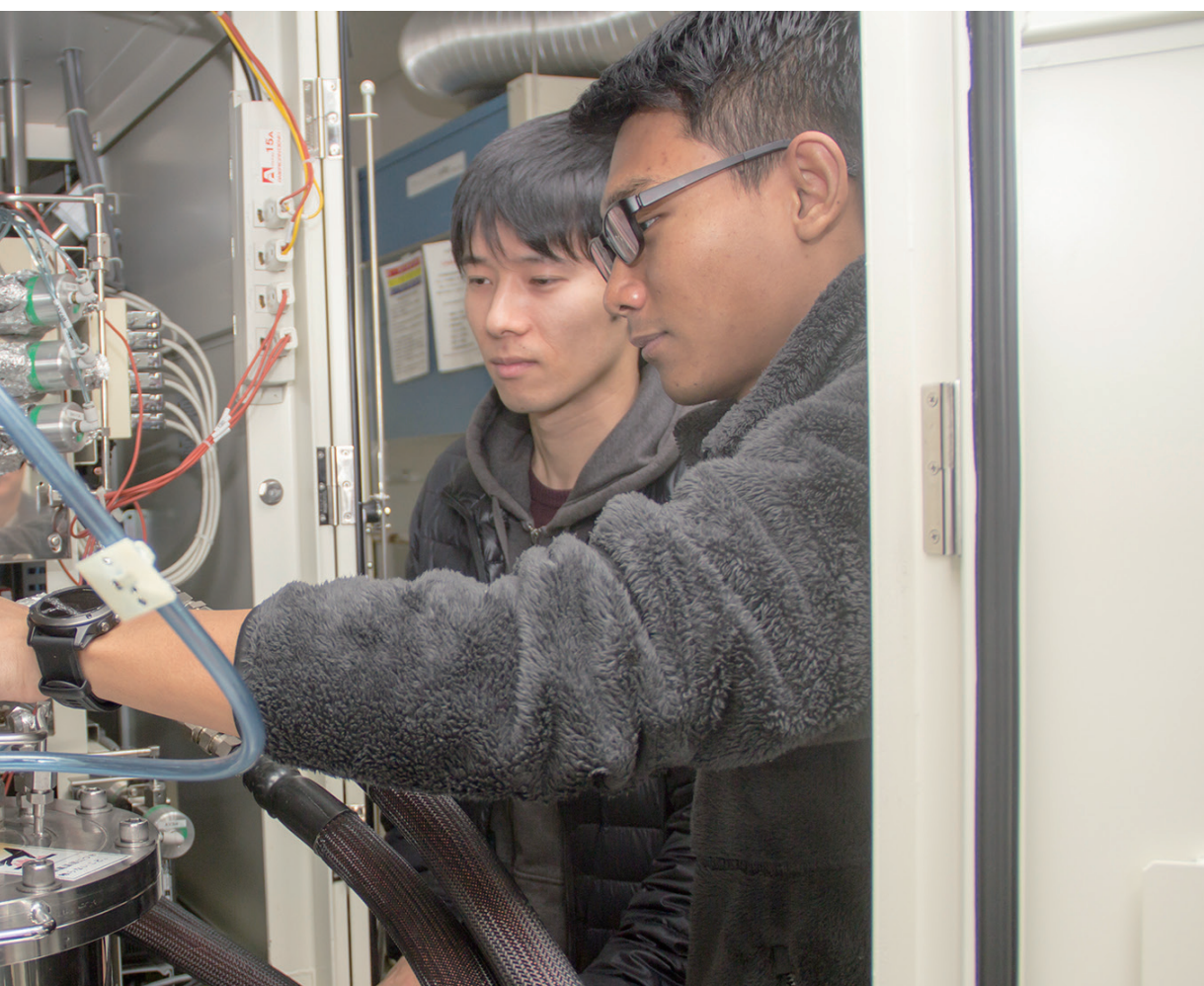
現在約40名の教員が所属してい

ます。数あるシーズの中で、最も

事業化が早いと位置づけられた

のが、藤田教授の研究成果である

酸化亜鉛薄膜を用いた「高速蛍



日本で唯一、島根大学が保有する酸化亜鉛薄膜専用のMOCVD装置。

現在進行中! / SNCCの事業

事業1

酸化亜鉛薄膜を用いた「高速蛍光体」

低エネルギーの電子線などの検出では、電子線を高速蛍光体で光に変換し、光電子倍增管で検出します。しかし、従来の高速蛍光体では、光電子倍增管の性能を活かしきれないという課題がありました。そこで、島根大学では酸化亜鉛薄膜を用いた新たな高速蛍光体を開発。また、日本で唯一の酸化亜鉛薄膜専用の製造装置と高度な薄膜成長技術を持っており、これにより分析機器の高性能化など、性能の向上に貢献していきます。



事業2

体内吸収性に優れた「エゴマ油粉末」

生活習慣病の予防効果が期待されている「オメガ3脂肪酸」。新たな摂取源として、オメガ3脂肪酸の一種である「 α -リノレン酸」を豊富に含む「エゴマ油」が注目されています。このエゴマ油を粉末化し、その吸収性について液体の油よりも優れる可能性を科学的に明らかにしました。粉末化により様々な食品へのエゴマ油の添加が容易になるだけでなく、エゴマ油の健康増進効果を最大限に利用することができるようになりますと期待されます。



吉清恵介准教授によるエゴマ油粉体による「機能性食品」事業です。高速蛍光体はすでに出荷が始まっていますが、製品の梱包や出荷作業を行うのは学生たちです。SNCCでは、学生がアルバイトとして企業活動をおこなっています。「現在、県内企業の約7割が後継者不足の問題を抱えています。将来、島根大学の学生が後継者として活躍してくれ

たら」と教育面にも積極的です。「大学には技術的蓄積があることが強みです。この蓄積は、外に目を向けると様々な可能性を生み出します。これは島根大学に限らず全国の大学でできますから、これがモデルケースとなつてほしいです」。SNCCの取り組みが、日本の産業構造自体を変えようというモデルになることが期待されます。



山陰地域の災害特性の解明と世界に通用する防災・減災方法を検討

「自然災害軽減教育研究センター」立ち上げ



平成25年の激甚災害(洪水災害)調査の様子

**地球環境災害軽減にかか
る教育・研究を推進**

中国地方では日本海側の山陰地域を含めて自然災害が頻発し、地域の生活や社会に大きな影響を与えてきました。比較的なだらかな山地や丘陵が多く、居住区域が内陸の中山間地域に広がる中国地方において、効果的な防災・減災の研究を推進するため、平成24年12月に自然災害軽減プロジェクトセンターが設置され、5年間に渡って地域における自然



今年1月7日に行われた看板上掲式

災害軽減に関する教育・研究・地域貢献活動を行い、ユネスココチエア「地球環境災害軽減」の申請も採択されました。ユネスココチエア (UNESCO Chair「ユネスコ講座」) は、大学間の国際協力・ネットワーク構築を推進し、知識共有と共同研究を通して各大学の實力を強化することを目的としたユネスコが推進しているプログラムで、日本では島根大学を含む10大学で事業が進められています。

平成30年4月、本学における自然災害軽減の教育、研究、国際協力活動を二層強化させるため「島根大学自然災害軽減教育研究センター」が設置されました。今年1月には島根大学ユネスココチエアとして事業を推進する体制が整い、看板上掲式を行いました。今後も山陰地域において、また世界において、自然災害の軽減に向けた様々な取り組みを推進していきます。

センターの 取り組み

島根大学ユネスコチェア本部



自然災害軽減教育研究センター

本センターでは、地域における様々な自然災害軽減に関する教育、研究、地域貢献活動を行っています。ユネスコチェア「地球環境災害軽減」の申請にも採択されたセンターの現在の取り組みを紹介します。

1 中国地方、特に 山陰地域の災害調査・ 研究活動

地域防災に貢献するため、災害発生時には現地調査を行い、発生メカニズムの解明や減災に活かすために活動しています。また、山陰地域で発生した過去の地震、斜面・気象災害を調べて、データベース化し順次公開しています。



平成30年4月に発生した島根県西部地震による志津見ダム下流大規模斜面崩壊の調査

2 ユネスコチェア「地球 環境災害軽減」の推進



インドネシアとナイジェリアの留学生が災害調査に参加した時の様子

島根大学ユネスコチェア「地球環境災害軽減」が昨年4月に正式に発足。このユネスコチェアの本部機能を果たし、国際協力を通して世界中の自然災害軽減に貢献します。また、国内外の大学と連携し、自然災害の研究を推進していきます。

現在、世界15か国から50の協力校が集まり、本学を中心とした教育・研究ネットワークを構築しています。この協力校である中国、同済大学など3大学で平成30年8月にユネスコチェアワークショップを開催し、約200名が参加しました。

また、島根大学のユネスコチェアでは大学院総合理工学研究科の「英語による「地球」教育研究特別プログラム」を柱として、海外の協力機関・大学で開講される教育科目の履修、国際的なトレーニングコースへの参加、学会・講演会での発表等を通して、地球の環境保全や自然災害の軽減に向けて、国際的に活躍できる人材の育成を目指します。

3 国際組織「国際地盤災害軽減 機構 (ICGdR)」の運営

本センターが事務局となり、平成16年から毎年、地盤災害軽減を目的とした国際会議を開催しています。また、地球環境災害軽減という新しい学際的学問分野を開拓するため、総合理工学部の汪教授が編集長として、国際学術誌「Geoenvironmental Disaster」を創刊。年に24編の学術論文を刊行しています。



平成30年にフランスで開催した国際会議

4 防災減災教育・人材育成

防災・減災の知識を身に付けた人材を育成し社会に輩出するため、平成26年度から、1年生以上を対象とした共通教養科目「山陰地域の自然災害を開講し、防災・減災教育を実施しています。



志津見ダムでの巡検の様子

地球環境と社会の 関係をより良く！

地震や火山噴火、地すべり、洪水、津波等、環境に影響を与える地球環境災害は、社会に大きな影響を及ぼします。これらの物理的影響は、社会や文化的要素、都市化や緊急時の計画、万が一の備え・知識不足などとの相互作用で大きなリスクが生じています。

このチェアのミッションは環境と社会の関係改善を行い、地球環境災害軽減のリスク認識、教育と研究を促進することです。地球環境災害軽減の教育と研究によって、地球環境と社会の関係をより良くすることがこのチェア的主要なキーワードとなります。

What's

島根大学
ユネスコチェア
「地球環境災害軽減」

もう一度行きたくない図書館づくり 学生による「図書館コンシェルジュ」



島根大学附属図書館では、学生の図書館利用の活性化を図る目的で、平成22年より学生の図書館コンシェルジュを導入し、図書館をより良く使ってもらうためにきめ細やかなサポートを行っています。今年度は25名の学生が精力的に活動しました。

学生の様々な工夫で 利便性の高い図書館に

図書館コンシェルジュとは、図書館利用者のサポートや、図書館をより良く使ってもらうための企画を実施する学生ボランティアです。学生自身が学生の図書館利用を支援することで、図書館を学生が学び合う場として、また、学生が学生を支援したり、図書館業務の一部を担ったりすることでキャリア形成支援の場として活用することを目的と



季刊誌「LiMe」。コンシェルジュおすめの本の紹介や、図書館からのお知らせ、コンシェルジュの活動報告を掲載。



しています。

学生の活動は、自主企画活動やカウンターでの利用者対応、新生・オープンキャンパスで訪れた高校生に図書館を案内する図書館ツアーの運営、松江市立図書館での絵本読み聞かせ、読書会の実施など多岐にわたります。昨年6月に学生と図書館職員で合宿研修を実施。1年間どのように活動していくかを話し合い、「楽しい図書館、かつ、もう1回行きたくない図書館」をテーマに進めることになりました。

VOICE

企画を作る際に、単に自分がやりたいことだけではなく、参加者が楽しめる・成長できるのはどのような企画なのか、また、それを実現するためにはどのような運営をすれば良いのかなど、客観的に物事を考えられるようになりました。



法文学部
社会文化学科3年

長廻 圭祐 さん

学生同士の話し合いや他の団体、他大学の方などと関わる機会が多く、人と話す力が身についたと感じています。私は図書館で配布するブックカバーのデザインをしていたので、デザイン力も身につけているのではないかと思います。



法文学部
言語文化学科3年

鳥山 藍 さん

入学式でコンシェルジュの存在を知り、図書館に関わる活動がしたいと思っていたので参加しました。利用者が気軽に参加でき、本に対する興味・関心を高められるような企画を目指して活動しました。4月以降も活動を継続していきたいです。



法文学部
言語文化学科 3年

立石 彩夏 さん

学生のみなさんには、活動を通して仲間とコミュニケーションをとりながら協力しあうこと、適切に情報共有すること、自由な発想を大切にすることを知ってほしいです。今後も、新しいことに積極的に取り組んでいってほしいですね。



企画部図書情報課
情報サービスグループ スタッフ

三村 のぞみ さん



2



3



4



5

1. カウンターでの利用者対応の様子。こんな本を探してほしいなどの学生の要望に対応しています。2. 活動報告会の様子。3. 図書館からのお知らせをまとめた「LiMeボード」の様子。4. テーマに沿った本を集めたコーナー「ブック☆コンパス」。5. 季節ごとにデザインした「ブックカバー」配付コーナー。

学生の自主企画活動では、イベント、展示・グッズ、広報の3チームに分かれ、職員を交えながら企画を立案。毎週水曜にミーティングをおこない、それぞれの企画を進めていきました。今年は、葉っぱに好きな本のタイトルとコメントを書いてもらい、それを貼りつけて「本の木を作る」「読書の木」や、島根大学内で気になる人や活躍している人・団体を招いて語ってもらう「ラーコモカフエ」、コンシェルジュがテーマに沿って本を展示する「ブックコンパス」、広報誌「LiMe」の発行など、昨年から継続している活動も含めて全部

で15の企画を実施しました。
2月7日に実施した活動報告会では、各企画を担当した学生が活動の成果や課題、次年度に向けた改善点などを発表しました。コンシェルジュとして活動した学生からは、「人と話し合う力が身に付いた」「計画的に物事を進めることができるようになった」などの声がかれました。自分たちで企画し、それを協力して実行する力、課題をどのように解決していくのか自分たちで考え、解決に向けて取り組む姿勢も身についたようです。

国境をこえてチャレンジする学生たち

留学生・留学体験紹介

Shimane ∞ World

現在島根大学では、世界28か国・地域、92の大学・機関と交流協定を結んでいます。毎年、多くの島大生が海外へ留学し、多くの留学生が海を渡ってやってきます。留学経験のある学生に、留学体験について伺いました。

FROM



出身国

南アフリカ

マロングウェニ シヴィウェ オドゥワ

MALONGWENI Siviwe Odwa さん

(生物資源科学研究科 環境資源科学専攻 2019年3月修了)



日本での研究と暮らし 両方の希望が叶った島根大学

日本は教育水準が高く、いつか日本で学んでみたいと思っていました。私の専門は土壌学で、日本で土壌学の専門家でアフリカに関連のある先生を探していたところ、島根大学の増永先生のことを知りました。また、地方に住んで日本の文化を体験したいと思っていたので、島根は自分が学びたいことと住みたい場所の両方が合致した場所でした。アフリカの農地で粘土質な場所は、土壌の物理性^(※)が悪く、作物生育が劣ります。この土壌をどのように改良すればより作物が育つのかについて、バイオ炭を使って研究しています。4月からは、幸運にもこのバイオ炭を製造している企業へインターンシップに行くことが決まりました。将来は母国に戻って農業関係の研究機関に入り、島根大学で学んだ日本式の手法を広めていきたいです。



1. 京都の学会に参加。プレゼン後の懇親会のひとコマ。
2. 毎年開催されている大山スキー合宿へ、他の留学生とともに参加。日本に来て初めて雪を見て感動したそうです。

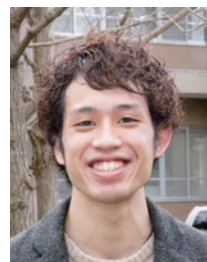
※土壌の物理性……土の硬さや耕しやすさ、通気性、保水性、排水性のこと。

TO



デンマーク (南デンマーク大学)

留学先



ひらの なゆた
平野 那由多さん

(総合理工学研究科
総合理工学専攻
2019年3月修了)

留学はきつと得るものがある 気軽に外に飛び出してみて

研究室の先輩がトビタテ！留学 JAPAN^(※)の1期生で、留学してみたらずと誘われたのがきっかけでした。学部時代から有機太陽電池に関する研究をしていたので、自然エネルギーに力を入れているデンマークへ半年間留学しました。留学先では、どのような有機素材を使うと電気への変換率が高い太陽電池になるのか、様々な素材で実験を繰り返しました。僕は英語が苦手、片言でしか話せませんでした。研究室のみんなが聞き取れるようにゆっくり話してくれたり、先生も友人のように相談にのってくれたりと環境に恵まれました。もともと留学には興味がなかった僕ですが、海外で生活する中で様々なことを感じることができました。留学という構成がちですが、もつと気軽に気持ちでチャレンジしてほしいです。

※トビタテ！留学 JAPAN：海外留学生数の倍増を目指す、文科省が2013年に開始した留学促進キャンペーンのこと。



1. 担当教授含め研究室メンバーと食事に行ったあとの帰り道にて。
2. 南デンマーク大学の実験室。有機太陽電池の研究を行うために必要な最先端の機器が揃っていました。

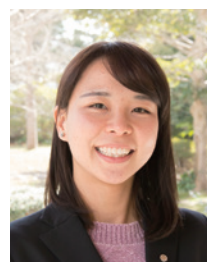


FROM



中国

出身国



リ・アミン
李 阿敏さん

(人文社会科学研究科
言語・社会文化専攻
2019年3月修了)

島根は人のやさしさが魅力 この縁を大切にしたい

将来は通訳の仕事がしたいと思いい、中国の大学では日本語を専攻していました。これまで日本に行ったことがなかったので、大学を卒業後、研究生として島根大学へ留学、2017年に大学院へ入学しました。現在は地理学研究室に所属し、中国地方のマンション開発について研究しています。日本語を聞くのは慣れていましたが、話す機会は少なかつたため、困難なことも多々ありました。でも、研究室のみんなが丁寧に教えてくれて、親切で優しい人が多いと感じました。4月からは、松江市内の企業に就職が決まっています。在学中にインターンシップに行ったことも決めのひとつですが、何より多くの友人がいる松江で就職したいとの想いが強かったです。社会人になつてからも、人との繋がりを大切にしていきたいです。



1. 地理学研究室で毎年恒例となっている巡検のーコマ。昨年9月末に、隠岐の知夫里島へ行きました。
2. 今年の年末年始は帰国しなかったので、ホームステイ先で年越し。お世話になったご夫婦と一緒に映画を見に行きました。



戦前メディアからひも解く 時代を映し、先導した オリンピックピックの影響力

国民の関心と共に メディアも変化

食 料 品	銀 行 会 社	機 械	服飾雑貨		演 芸	朝日新聞社の社告					そ の 他	合 計	1 9 2 8 年 大 会 を 1 と し た と き の 値
			う ち 百 貨 店	イベント									
				う ち ニ ュ ー ス 映 画		増 ペ ー ジ ・ 号 外	書 籍	そ の 他					
0	0	0	0	0	0	3	0	0	3	0	0	36	1.13
0	0	0	1	1	2	3	0	0	5	0	0	32	1.00
16	4	17	6	5	55	59	49	8	3	2	8	306	9.56
28	0	24	13	5	101	25	24	9	6	1	17	421	13.16

注：分析対象としたのは、各大会とも体育協会の選手団送別式の翌日から選手団解散式の翌日までの「東京朝日新聞」（号外を除く）である。広告の業種別分類は「新聞年鑑」を参考にした。ただし一部の広告については、企業および商品の性格を筆者が判断して分類した。（例えば、「新聞年鑑（第11巻）」では「雑（その他）」に掲載されていた東京電機株式会社を「機械」とみなし、業種としては「図書」に該当する「大日本雄弁会講談社」の栄養剤の広告を「薬品」とみなした。）「新聞年鑑」の主要広告主一覧にない企業についても、筆者の判断で分類を行い、業種分類が明確でないものはすべて「その他」とした。
出典：「東京朝日新聞」紙面より浜田准教授が作成。

日本人が初めてオリンピックに出場したのは、1912年のストックホルム大会。当時の報道は新聞朝刊5ページ目に数行載る程度で、男子選手が陸上競技に出場したこと、開会式が行われたことを淡々と伝えるだけでした。写真もなく、競技結果もありません。「国民の多くがオリンピック自体をあまり知らなかったでしょう。国や記者の意識も今とは全く違います」と浜田准教授。その後、国民の関心や技術の進歩と相互して報道の仕方が変化していきます。

1928年のアムステルダム大会で日本選手が初めて優勝したこと、報じる新聞では写真を起用、記事

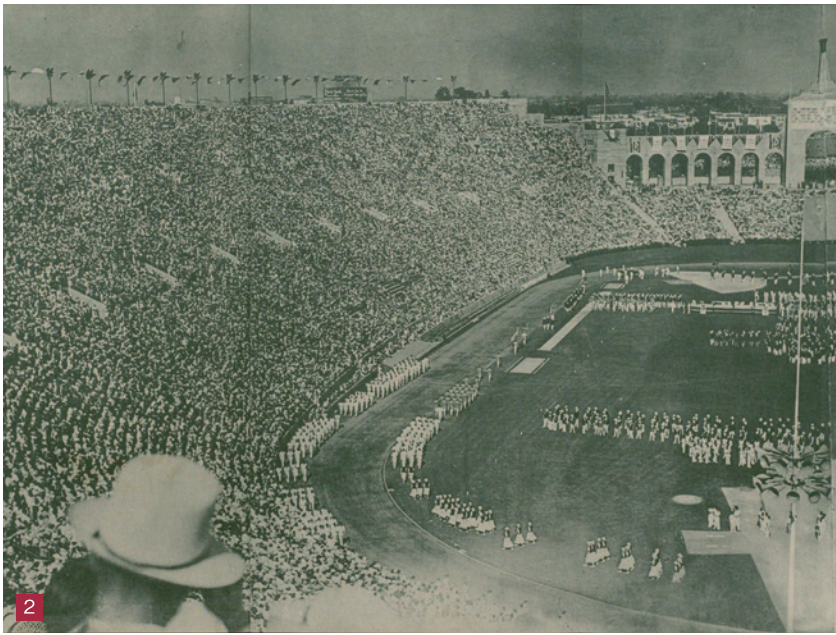
2020年東京オリンピックを来年に控え、テレビや新聞や雑誌、ネットなどのメディアでオリンピックが取り上げられない日はありません。法文学部言語文化学科の浜田幸絵准教授は、オリンピックとメディアの歴史、さらにそれらが社会や文化に与えてきた影響について研究されています。



PROFILE

法文学部 言語文化学科
浜田 幸絵 准教授

女性のスポーツ参加を女性観の変化と重ね合わせて見ていくことや、満州のスポーツ、戦前に日本代表として活躍していた台湾、朝鮮のスポーツ選手らの研究にも関心があります。2020年の東京大会では、地方と東京の関心の違いや開会式で伝えられるメッセージなどに注目しています。



1. ロサンゼルス大会以降、オリンピックに言及した広告の業種が多岐にわたるようになり、広告件数も飛躍的に増加している。2. 第10回オリンピック大会開会式(1932年7月30日ロサンゼルス市において)「第十回オリンピック画報」、興文社、1932年 3. オリンピックに関する浜田准教授の著書。1の表は「日本におけるメディア・オリンピックの誕生」より。



大会	薬品	化粧品	図書	
				うちスポーツ専門雑誌
1924年 パリ大会	0	0	21	9
1928年 アムステルダム大会	0	0	15	6
1932年 ロサンゼルス大会	11	9	53	1
1936年 ベルリン大会	17	14	123	14

1 『東京朝日新聞』のオリンピック関連広告件数の推移

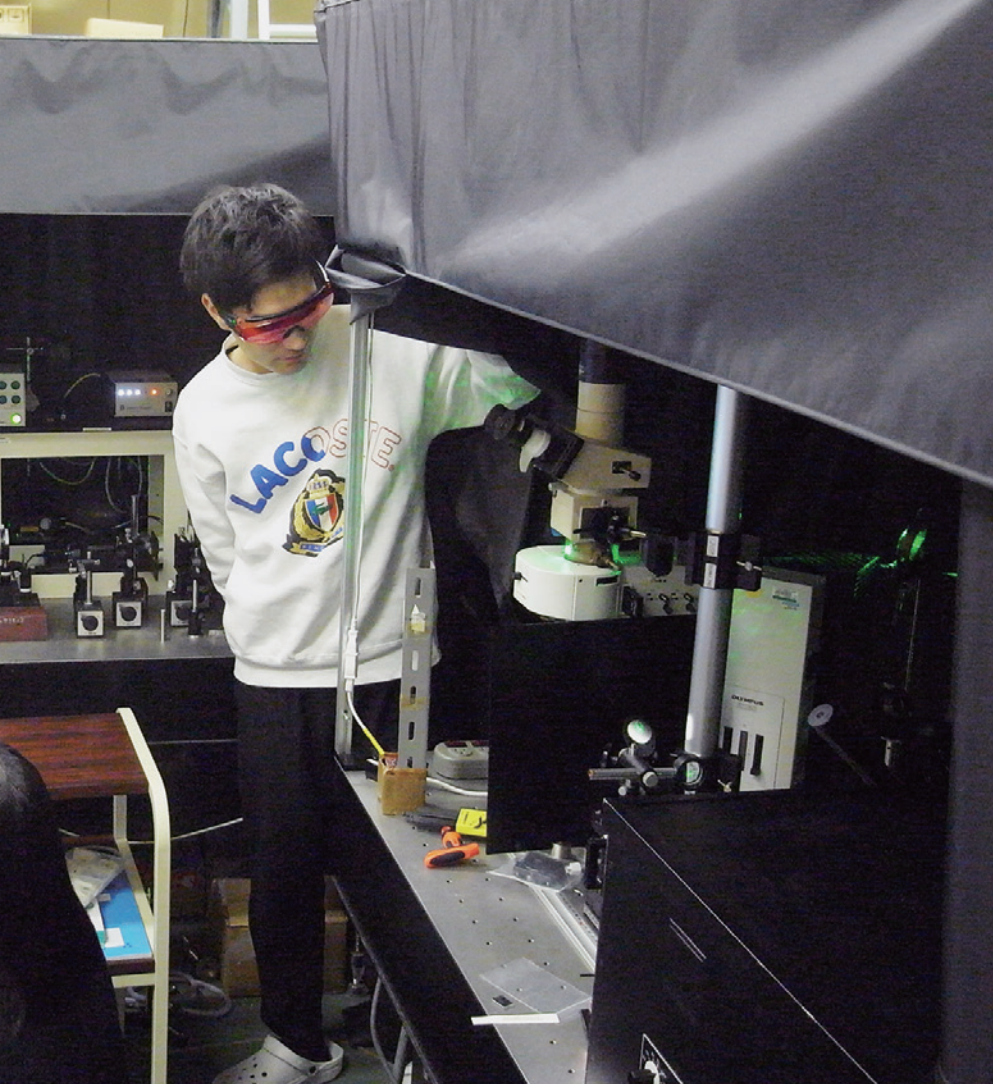
も目立つ場所に掲載されました。ただし写真は事前に撮影されたもので、競技中のもではありませんでした。しかしその4年後のロサンゼルス大会では、米国から船で運んできた写真を太平洋の洋上で空から釣り上げて日本に運んだそうです。「新聞の号外が出るなど、この頃から日本でもオリンピックが重視されるようになってきました。戦争報道で競い合っていた各社がスポーツ、特にオリンピックにも力を入れてきたのです。オリンピック報道は、メディアの技術を発達させてきたファクターの一つになってきたといってもいいでしょう」。

オリンピックの歴史ではヒトラーによるベルリン大会(1936年)が重要であり、この大会で最初にメディアを本格的に利用したと言われています。しかし浜田准教授は、日本ではその4年前には既にメディアの変容が見られていたと指摘します。「満州事変、上海事変の直後にあったロサンゼルス大会で、日本は国や企業、マスコミ自身もオリンピックを利用していました。世界中が注目するイベントを使って、国際的な対日イメージの回復や1940年の東京五輪招致などを狙い、報道量がぐっと上がったのです」。新聞に掲載された広告の

量は前回の約10倍にも上り、百貨店はオリンピックセールを実施。企業は販促に利用するようになったことも伺われます。

**文化、社会にも影響
時代を映す大きな鏡**

人々の関心を集めるオリンピックは、様々な文化、社会に大きな影響を与えてきました。ユニークな話として浜田准教授が紹介してくれたのが、1940年に予定された東京五輪での聖火リレーです。前回ベルリン大会から始まったものの、ドイツのようにオリンピック発祥の地アテネからスタートさせるのか、皇紀2600年にちなんで高千穂や伊勢神宮から始めるのかが大いに議論されたそうです。それが通常のスポーツ大会との大きな違いです。64年の東京大会の際には、ホスト国としてマナーや衛生面の向上、英語教育の推進などが国を挙げてうたわれ、地方にまで浸透しました。「オリンピックは時代を映す大きな鏡の一つのようなものです。歴史をひも解くことで、従来と違う視点から社会を考察することができれば」。



光や放射線などを使って 強誘電体の相転移を観測 より高性能な物質の開発へ

強誘電体の便利な性質 その起源を探索

電化製品の中で電気を瞬間的に蓄えて放出するコンデンサや電気を音に変換する圧電素子には「強誘電体」という物質が使われています。強誘電体は、スマートフォンやパソコン、テレビに数百個〜数千個入っています。さらに、超音波エコーや赤外線センサー、魚群探知機にも使われていて、あまり知られていませんが非常に身近な物質です。「こんな身近な物質にも面白い物理がたくさんあるんですよ」と、塚田准教授が相転移について説明してくれました。

氷が温度を上げることで水になるように、物質の温度を変化させると相が変化する「相転移」という現象

テレビやスマートフォンなど、私たちの生活にとって身近な電化製品にたくさん入っている「強誘電体」。より安全で高性能化するために重要なのは「相転移」です。相転移を光や放射線を駆使して研究されているのが、教育学部自然環境教育講座の塚田真也准教授です。

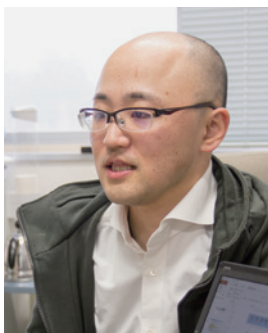
PROFILE

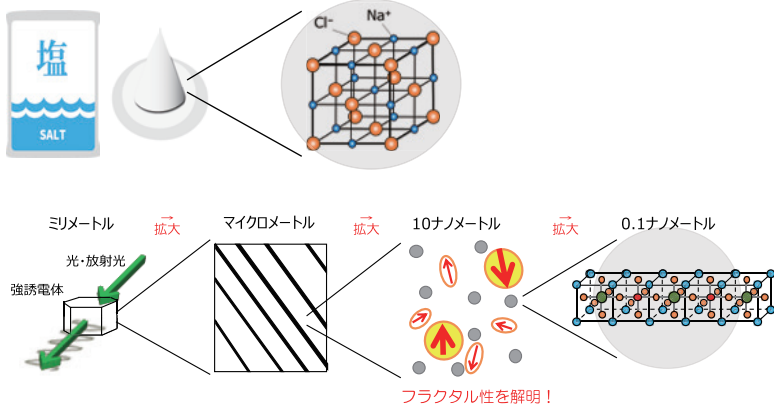
教育学部 学校教育課程 自然環境教育講座

塚田 真也 准教授

つかだ しんや

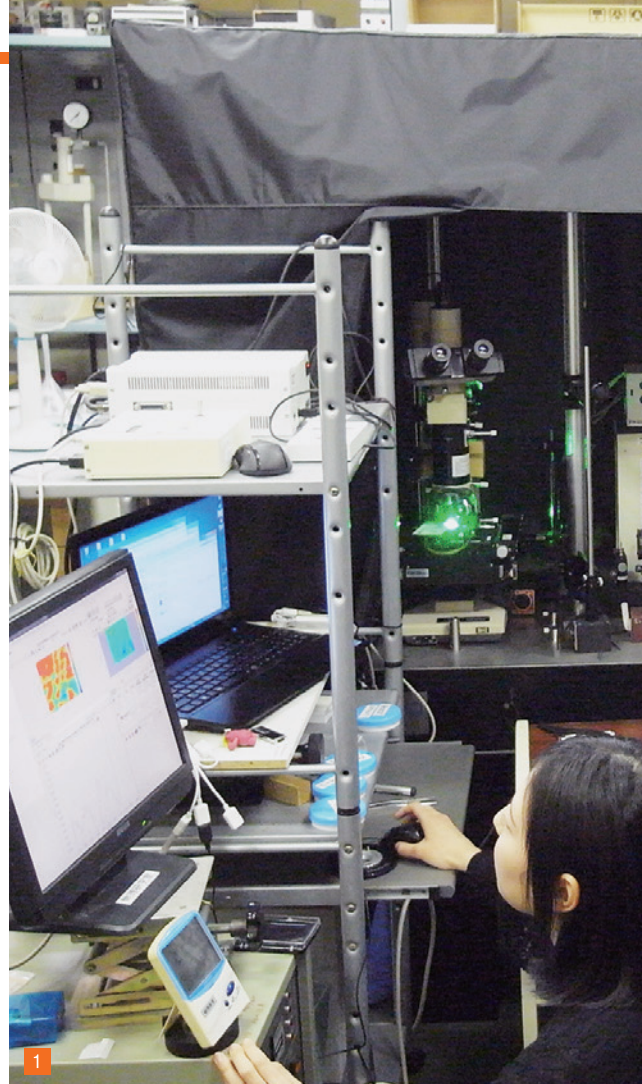
自然をある視点から観ると、簡潔な論理構造が浮かび上がってくる場合があります。その爽快な瞬間を求めて研究を続けています。教育学部では、小中学生とも触れ合う機会も多くあり、理科の面白さや物の見方を知ることによって人生が豊かになることを少しでも感じ取ってもらえればうれしいです。





2 リラクサー強誘電体の理解

1.レーザー光を用いた実験の様子。学生も積極的に実験しています。
 2.従来の強誘電体は、塩のようにどの部分をとっても同じ構造で、原子が規則的に並ぶと考えられてきました。近年明らかになってきたリラクサーは、観るスケールによって様相が異なります。
 3.小学校5・6年生を対象とした科学教室「島根わくわくサイエンスクラブ」で、ゲルマニウムラジオを製作した際の一場面。



象があります。強誘電体にも相転移があり、強誘電体が持つ便利な性質は、温度が上がると相転移して消えてしまいます。温度が高いと原子が大きく揺れることが相転移を起こす原因であるため、原子の位置や原子の動きを知ることが相転移を解明することができます。相転移をする温度で電気を蓄える性能が上がるため、強誘電体の相転移を理解することは、生活を便利にすることにもつながります。例えば、チタン酸バリウムという強誘電体は、120度付近で相転移をします。「これまで、研究者たちは異なる原子を物質に混ぜて相転移をコントロールすることで、室温でも性能の良い状態を創り出してきました」。

高性能強誘電体の相転移を広い時空間で

レーザー光や放射線は、物質を壊すことなく物質の中に入り、たくさん情報を持って出てきます（図1実験風景）。出てきた光を分析すると、原子のようなミクロ

なもの場所や動きを知ることができません。

近年、チタン酸バリウムの数十倍も性能を持つ「リラクサー」が登場しました。その中でも塚田准教授は、原子の並び方で性質が変わる特別な鉛複合酸化物に着目。光や放射光を駆使して、ナノメートル領域に存在するフラクタルを観測しました（図2）。このフラクタルとは、ロシアの民芸品であるマトリョーシカのように、図形の中に自分そっくりな小さな図形が含まれている複雑な構造を指します。この強誘電体の中のフラクタルが温度を上げると変化していき、相転移近傍で動きやすくなることを見出しました。「物質開発では、従来のように経験則に則って原子を混ぜていくだけでなく、どの時空間を変化させれば高性能化できるのか考えることが大切。リラクサーの場合は、ナノメートル・ピコ秒領域をどう制御するかが大事になりますね」。

リラクサーは非常に高性能ですが、環境に有害な鉛を含むなど課題があります。「リラクサーの相転移や構造を解明することは、より安全で高度な強誘電体の開発に結びつくはず」。

農作物の安定供給目指し 微生物や光を活用した 病気の防除法を開発

病気に強い変異体の メカニズムを解明

病害虫や雑草の防除に加え、農作物の成長促進などの効果も持つ「農薬」は、安全で安定的な農作物の供給を可能にし、国民の豊かな食生活を生み出しています。しかし農薬だけを使っていると、農薬に抵抗する力（耐性）を持った病原菌が発生してしまいます。上野教授は、微生物や光に農作物の病気を防除する力を持つものがあることに注目、環境にも優しい防除法の開発を目指しています。研究のきっかけは、いもち病というイネの病気に非常に強い抵抗性を持つ、突然変異体のメカニズムを解明したことです。

いもち病菌の胞子を接種したイネ

農作物を安定的に生産・供給するためには、害虫や病気、雑草などを防除する「農薬」の存在が欠かせません。しかし過度に化学農薬を使えば、農薬に耐性を持った病原菌を発生させる恐れがあります。そこで環境共生科学科の上野誠教授は、光や微生物を使って農作物の病気を防ぐ方法を研究しています。

PROFILE

生物資源科学部 環境共生科学科
上野 誠 教授
うえの まこと

植物を救うと言いながらも研究では、わざと病気の菌を付けるので可哀そうですね（苦笑）。AIを活用して農作物の病気を診断できるシステムにも興味があります。朝鮮人参やエゴマなど島根の特産物の病害データを集め、生産者の力になればと考えています。





1.微生物STS1の培養液を接種したキュウリの葉(右)は、うどんこ病を発生しておらず、植物病原菌を抑制していることが分かる。 2.松江市内の圃場で見つかった微生物「ストレプトマイセス(STS1)」。 3.島根県内での土壌サンプル採取の様子。4.市民講座で植物の病気について解説する上野教授。



の葉から植物成分を抽出して構造を明らかにした結果、病気にならない変異体には、植物ホルモンの一種であるトリプタミンという物質が多く蓄積されていたことが判明。しかし真つ暗な環境では、病菌の胞子が形成されたことから、反応には光も不可欠なことが分かりました。次に特定の波長の光だけを通すフィルムを使って、色による差異を調べたところ、青や緑では効果が少なく、赤色光を当てた時に最も多くのトリプタミンが作られました。

そこで上野教授は、「他の作物でも、赤色光を当てることで病気に強くなるのでは」と考えて、ビニールハウス内で上から赤い光を当ててナスやキュウリを栽培。すると自然光だけに比べ、ナス黒枯病やキュウリ褐班病などの発生を抑えることができました。

植物成分に由来する病気の防除では、島根特産の柚子と、共同研究している琉球大学の沖縄特産シークワーサーで調査を進め、既に効果を実感しているそうです。

昔の防除法や 微生物農薬にも注目

化学農薬がなかった時代の防除法にも注目。昔の農業書を解析して、ソバが利用されていたと分かり、同様の方法での防除が可能か再現しています。「ソバの葉の中に抗菌物質があることは分かっていましたが、まだ物質の構造解析には至っていません」。数ミリグラムの試料を得るのに数キロ単位のソバの葉を熱抽出する必要があります。しかし抗菌物質を固定することができれば、植物成分由来の防除剤開発を進めることもできます。上野教授の口調が熱を帯びます。

近年、細菌やウイルスなどの微生物の働きを利用して病害を防除する「微生物農薬」が全国的にも増加。観光農園などでは積極的に使われているそうです。上野教授も、イチゴの炭疽病やキュウリのうどんこ病を抑制する菌を発見されました。「防除に基本的に農薬が必須なのは言うまでもありません。しかし微生物や光、植物由来の成分など、自然界の産物を用いた防除法では耐性菌が発生しないのに対し、化学農薬を使い続けると薬に抵抗する力を持つ菌が発生するという課題があります。今後、農薬だけに依存しない防除法のニーズはより高まってくると思っています」。

しまだい × 島根のまち

各学部・学科単位で県内様々な市町村とのつながりをもつ島根大学。その広いつながりの中で、大学と地域、2つの要素が合わさったとき、一体どのような効果が生み出されているのか。具体的な取り組みを交えて紹介します。

スタートアップセミナー

全学初年次教育

大学での学びの基礎を 地域の中で伸ばす

島根大学の初年次教育科目「スタートアップセミナー」の一環として島根県とともに県内自治体へのバスツアーを開催しました。飯南町では大しめ縄創作館、飯南町本庁舎などを訪問し、飯南町の魅力的な人・もの・コトに直に触れ、大変好評を得ました。バスツアー後には今回経験したことを生かし、魅力の深掘り・提案などをポスターに作成し、発表会において地域の魅力発信、提案のプレゼンテーションを行いました。本学で取り組む地域志向教育と連携し、今後もさらなる展開が期待されます。



飯南町国道54号活性化 アクションプラン推進協議会

教育学部

授業を通じて地域づくりを実施

飯南町にとって重要なアクセスルートである国道54号。この資源を持続的に活用するための様々な方法やアイデア等を検討する会に教育学部作野教授が会長として参画、「飯南町国道54号活性化アクションプラン」を策定し、様々な取り組みを行いました。なかでも、島根大学は「初等社会科内容構成研究」として国道54号線沿線で展開されている地域活動や事業運営について研究する授業を実施しました。



飯南町旧役場 文書調査報告書

法文学部

公文書の調査・整理を通じて町づくりに寄与

法文学部現代史学研究室の専門教育科目「古文書学実習Ⅱ」、学習院大学大学院アーカイブズ学専攻の安藤正人研究室等で結成した調査団と飯南町が協力して調査を行った『飯南町旧役場文書調査報告書』を平成30年3月に刊行しました。これは島根大学と飯南町が平成25年10月に締結した幅広い分野における協力を行う「包括的連携に関する協定」の協定実践の一環です。同町の公文書保存や活用について、今後も飯南町と協力していくことにしています。



農村調査分析論

× 生物資源科学部

地域住民との交流から農業・農村を学ぶ

生物資源科学部農林生産学科農業経済学コースの授業「農村調査分析論」では、飯南町志々地区獅子の住民との交流を通じて農業・農村を学んでいます。平成30年度は田舎交流体験（春・秋）、はやしこ、志々地区の運動会等に参加しました。学生にとっては現場での多様な経験を通じて農業・農村を経験的に理解することにつながったほか、調査・分析の成果は現地報告会や報告書を通じて地域住民に還元することができました。



社会人地域実習

× 地域教育
魅力化センター

ふるさとの魅力化を飯南町で学修

島根大学教育推進センター内の地域教育魅力化センターは平成28年4月から「ふるさと魅力化フロンティア養成コース」を開講し、教育魅力化・地域活性化に関連する社会人を対象としたコーディネーター養成を行っています。飯南町では、島根県立飯南高校における様々な魅力化活動、飯南町における地域活性化の取り組みの視察、意見交換を通じて、活性化や魅力化についての要点を学ぶことにつながりました。



飯南町長
より
コメント

飯南町を担う「人づくり」

飯南町ではこれまで進めてきた高校魅力化事業を今年度更に拡大し、町全体の魅力化事業に取り組んでいます。中でも「保小中高一貫教育」の取り組みは、島根大学との連携により高校卒業後の大学までを見越した連携教育や教育の魅力化が図られるものと考えています。様々な分野における島根大学との連携を通して、将来の飯南町を担う「人づくり」を一層進めていきます。

飯南町長
山崎 英樹 さん



今回紹介する
自治体は…

飯南町



飯南町って どんなところ？

飯南町は、平成17年1月に旧頓原町、赤来町の2町の合併により誕生しました。島根県の中南部にあり、周囲を1,000メートル級の山々に囲まれた標高約450メートルの代表的な高原地帯です。



地域医療実習

× 医学部

地域医療・地域看護の現実を地域で学ぶ

医学部医学科では、低学年から島根県内の地域医療拠点病院・へき地診療所等と連携して実習を行っています。飯南町では医学科で地域医療や公衆衛生業務に対する理解を深めることを目的に、「夏季地域医療実習」を飯南町立飯南病院で実施しています。また看護学科では地域で生活する人々の健康・生活を支援する保健師に必要な知識・技術および地域ケアシステムについて理解を深め、公衆衛生看護活動の専門職としての態度を養うことを目的に「地域看護学実習I」を実施しています。



社会で 活躍する 卒業生

A graduate of
Shimane University

No. 04

看護師

卒業後も様々な分野で活躍する島大OB・OG。その中から、山陰をフィールドに活躍する注目の人を紹介するシリーズ企画です。今回は、医学部附属病院で働きながら、大学院にも在籍する坪倉さんに、現在に至る道のりや今後の展望についてうかがいました。

Profile

坪倉 早季子 さん

島根大学医学部附属病院
雲南市出身。2016年3月に医学部看護学科を卒業し、同年4月より医学部附属病院に就職。泌尿器科・脳神経外科の入院患者を担当する。同年4月に大学院医学系研究科にも進学したが、業務に専念するため一時休学。2018年4月より復学し、現在は業務の合間をぬって、毎週火曜日に大学院の講義を受けている。専攻は高齢者看護学コース。



業務は2人ペアで進めます。1ペアで十数名の患者さんを担当するため、患者さんに関する情報共有は欠かせません。

最初の1年は、とにかく必死で勉強したという坪倉さん。所属する科ごとに、患者さんを診る特有の視点があるそうですが、「無の状態からのスタートで、最

必死だった社会人1年目
大学の学びを思い出しつつ
チームで看護にあたる

元気な声と笑顔で患者さんと言葉を交わす坪倉さん。島根大学医学部附属病院の泌尿器科・脳神経外科で、入院患者を担当しています。36床の病棟では、チームで看護にあたります。坪倉さんの1日は患者さんの情報共有から始まり、配薬、点滴作りのあと、バイタル測定や清潔ケアなどをを行います。

総理工の学生さん

によるリノベーション作業、
面白かったです。

(島根県出雲市・60代女性)

大学で作っている

商品などを
紹介してほしい。

(島根県松江市・30代男性)

高大接続やダイガクジャーニーなど、

地域と島大の

密着性がよくわかります。

(島根県飯石郡・60代男性)



担当する患者さんのバイタル測定の様子。患者さんとのコミュニケーションも忘れません。

初は大事なことを見落としたり、言われたことがすぐにできなかつたりと、反省だらけでした」と、当手を振り返ります。日々の業務に追われる中で、大学時代に学んだ様々なことを頭に浮かべながら「しっかりしなければ」と気持ちを立て直したといいます。

恵まれた学びの環境で 患者さん一人ひとりに 最適な看護を考える

看護の基礎をしっかりと学んだ大学の4年間。中でも印象深かったのが、3年生の実習でした。6、7人のグループに分かれて、附属病院で半年間、県内の病院等で2週間実習を行いました。期間中は、「患者さんにとって一番良い看護とはどんなものなのか」を常に考え、試行錯誤しながら毎日を経過したそうです。

地域実習で、脳梗塞の患者さんの退院前指導をした際には、日常生活に戻った時の食事で、減塩をしてもらうための伝え方を考えました。「あくまで押し付けにならないようにしたい」と思って、私自身が料理を作って写真を撮って、それを見てもらって料理のアドバイスを求めたんです。そのやりとりを繰り返す中で、患者さん自身が考え、気付いてもらえるように工夫しました」。学生時代だからこそ、じっくり時間をかけてできたことだったと言いつつも、患

者さんに寄り添い、一人ひとりに合った看護を考える姿勢は、現在の仕事に活かされています。



病院実習で半年間をともに過ごしたグループのメンバーと。お互い励まし合い、相談しながら実習を乗り切りました。

理論と実践を往還 高齢化の進む島根で 今の学びを活かしたい

学部での4年間を通じて、看護学科の先生方に看護師としても教員としても憧れを抱くようになった坪倉さん。「先生方には理論と実践の両面から、患者さんにとって良い看護するための考え方・方法をたくさん教わりました。いつしか、私も先生方の

ような存在になりたいという思いが強くなっていったんです」。そして選んだのが、働きながら大学院で学ぶという道でした。

働きながら学ぶことの良さについて、理論と実践を往還できることにあると坪倉さんはいいます。現場で出た課題を解決するための基礎を大学院で学び、一方の現場では、大学院での学びによって、様々な側面から物事を見たり考えたりすることに繋がっているそうです。「これはどのようにするのが良かったんだろうか?という現場で感じたもやもやを、大学院の学びで整理できることはとてもありがたいですね」。

坪倉さんが専攻しているのは高齢者看護学コースです。「島根は高齢化の進む地域。今私が学んでいることが一番活かせる場所でもあります。この問題を解決するために何ができるのか、どうしたらよいかじっくりと考えていきたい」と力強く語ってくれました。目標に向けて、実践と理論を往還する日々はまだ続きます。

読者の声 Voice

広報しまだい
vol.39に
寄せられた声をお届けします。

学長対談などは、これからの大学の方向性が見えるので今後も続けてほしい。

(鳥取県西伯郡・60代女性)

地域と密着した活動に期待しています。地域活性化のアイデアをこれからもお願いします。

(鳥根県邑智郡・70代女性)

しまだいいり

大学の
旬な情報
をお届け

島根大学が学内外問わず行っている多彩な活動の中から大学の今がわかる選りすぐりの情報をお伝えします。

TOPICS

1

若者と地域との出会いの場

「しまね大交流会2018」を開催



今回で4回目となる「しまね大交流会」を、12月15日(土)くにびきメッセにて開催しました。本事業は、「地(知)の拠点大学における地方創生推進事業(COC+)」の採択を受け、地域で活躍する人材の育成・定着を図るため、県内高等教育機関及び企業・行政・団体と連携し、「オールしまね」で推進する事業の一環として実施しています。当日は208ブースの出展、学生約1500名の参加を含む2600名を超える来場者があり、会場は若者と大人の交流で熱気に包まれていました。今回新たに島根県教育委員会も共催に加わり、高校生向けのセミナーと保護者や教員向けのセミナーも実施しました。今後、地域における恒例交流イベントとして定着していくことが期待されます。

TOPICS

2

島根とインドのさらなる交流拡大に期待

インドにプロジェクトオフィスを開所



12月17日(月)、協定校であるインドのコチ理工工科大学において、「島根大学×コチ理工工科大学プロジェクトオフィス」開所式が開催され、服部学長が出席しました。このオフィスは、インド国内における日本語教育の拠点となり、本学の情報発信を行うことで、インドからの留学生を積極的に受け入れることを目的に設置されました。今後、学術交流の一層の促進や、学生交流に繋がることが期待されています。

TOPICS

3

高校生が自分の未来像を考える一助に

「授業大学」を実施



2月7日(木)、島根大学の学生30名が江津市の石見智翠館高等学校を訪問し、「大学」をキーワードに100分間の「授業」を行いました。今回の授業は、「大学生との交流を通して高校生の力を引き出す」ことを目的として実施したもので、この授業を通して、大学生と高校生、高校生同士が「交流」し、1年生には理想の大学生像を、2年生には残りの高校生活における軸について考えてもらいました。

美保関古民家の記事をみて、
学生さんたちと一緒に仕事を
してみたくまりました!

島根県出雲市・50代女性

島大生が、これからの
未来を作ってくれること、
願っています。

島根県松江市・40代女性

最新医療情報の紹介など、医療を
もっと身近で受けやすくなるよう
な仕組みを充実させてほしい。

島根県出雲市・70代男性



TOPICS

4

島根県内の自治体や企業、高校で交流を深める 生物資源科学部の学生が企業等を訪問

1月29日(火)に生物資源科学部の3・4年生、大学院生と留学生の計6名が江津市の江津市役所、地元企業(石見麦酒、木村窯業所)、島根県立江津高等学校を、2月7日(木)には生物資源科学部の1〜4年生と留学生の計8名が雲南市の地元企業(株式会社吉田ふるさと村)、雲南市役所、島根県立三刀屋高等学校を訪問しました。

この取り組みは2018年度COC+事業「県内企業等研究活動支援事業」、生物資源科学部「学生の地域活性化実現のための進路探し」の一環として行ったものです。雲南市で訪問した株式会社・吉田ふるさと村では、会社設立の経緯や、現在は少量多品目の加工食品が主流で、バス事業、観光事業、水道事業等で事業展開しているというお話がありました。学生からは、「手作りでこだわりの商品作りを行っていることにとても魅力を感じた」、「商品のパッケージを極力自分たちで作っているというのは興味深かった」などの感想が聞かれました。



TOPICS

6

アクセス数100万件を突破！ 『島根県遺跡データベース』

平成15年に島根大学が地域貢献事業の一環として、島根県教育委員会など県内自治体と共同で構築した『島根県遺跡データベース』が、アクセス数100万件以上になりました。このデータベースは、島根県内にある遺跡約1万1400件のほか、発掘調査で見つかった遺構・遺物、遺跡の調査歴、関連文献、写真などが網羅的に収録されており、インターネットで検索できるようになっています。ぜひご覧ください。



『島根県遺跡データベース』はこちら
(<https://iseki.shimane-u.ac.jp>)からご確認ください。
QRコードからでもご覧いただけます。

TOPICS

5

学内外での国際交流の輪がひろがる 留学生との交流会を実施



12月22日(土)、留学生との交流会を開催しました。この交流会は、本学の留学生、日本人学生、教職員及び学外の留学生支援関係者等が一堂に会し、国際交流の活性化及び相互理解の推進を図るために毎年開催しています。11回目となる今回は、地元企業関係者の方々にも多数参加いただき、約250人の参加者でにぎやかに開催されました。多くの参加者が交流を深めた意義深い会となりました。

読者の声 Voice

広報しまだい
vol.39に
寄せられた声
をお届けします。

内向きのテーマが多いので、
外部から見た島大という観点も
取り入れてもらいたい。

島根県松江市・70代男性

食物アレルギーの話
楽しく読ませていただきました。

奈良県奈良市・70代男性

7

新たな島根大学ブランド地域特産野菜が登場！
島根大学育成新品種を試験販売



島根大学生物資源科学部で育成した花茎利用型アブラナ(ナバナ)の新品種2品種「ガイニマイナ」と「マゲニマイナ」を発表し、松江市内で試験販売されました。この新品種は、同学部農林生産学科の小林伸雄教授が島根県の伝統野菜・津田カブを育種利用し、冬季の無加温ハウスで栽培可能で、うま味成分(グルタミン酸)が倍増した「とてもおいしい菜っ葉を育成したものです。新品種の名前「ガイニマイナ」と「マゲニマイナ」は「いずれも出雲弁で「とてもおいしい菜」の意味で、1分茹でるだけで柔らかな茎のうま味や甘みを楽しむことが出来ます。」

今シーズンから松江市内農家で試験栽培を開始し、2月5日(火)には試験販売が行われた農産物直売所JAGグリーンかわつで新品種発表会と試食販売を開催しました。当口はおひたしや天ぶらの試食が振舞われ、来店者は「美味しい・甘い」と感想を述べながら、新品種の菜っ葉を購入されていました。新たな島根大学ブランド地域特産野菜が、地域普及を目指して第一歩を踏み出しました。

8

島根大学「6つの学び」先輩たちのReal Voice
学生動画公開のお知らせ



この度、島根大学に入学して感じたことや大学生活で得た学びを、先輩たちのReal Voiceとして視聴できる動画コンテンツを立ち上げました！動画では本学を選んだ理由や所属学部のおすすめポイント、将来の夢などを各学部の学生が語っています。県内の皆様、これから受験を控えている学生の皆様、ぜひご視聴ください！

島根大学「6つの学び」の詳細についてはこちら
(<https://www.shimane-u.ac.jp/introduction/publicrelations/movie/>)をご確認下さい。
QRコードからもご覧いただけます。



9

新種および日本初記録種のワラエビ類
共同研究により新種を発見



新種および日本初記録種のワラエビ類を発見した論文がこの度出版されました。本研究は、大澤正幸研究者と沖縄美ら海水族館の東地拓生飼育職員との共同研究により、沖縄美ら海水族館において、10年以上にわたり「ミナミツノコシオリエビ」として展示を継続してきた種が、実は新種であったことが判明しました。海域の生態系の理解を進める上でも、こうした「基盤的研究」の知見を積み重ねることが大切です。

読者の声
Voice

広報しまだい vol.39に寄せられた声をお届けします。

人口減少、空き家問題など多くの課題について島根大学が真摯に取り組んでいる様子が伝わりました。

(岐阜県美濃市・20代男性)

島大生のチャレンジ精神
素晴らしいです。今後も活躍を。

(島根県出雲市・60代男性)

しまだい's サークル

Shimadai's Circle

各キャンパスでそれぞれの特徴を生かして活動する島大生。運動系や文化系はもちろん、大学を飛び出して活動する団体もあり、活躍の幅は様々です。そんな各団体について、実際の活動内容を交えて紹介します。

松江キャンパス

島根大学 かるた会



1. 活動は週に2回。現在の部員数は24名で、社会人も練習に参加しています。ほとんどが競技かるた初心者で、まずは百人一首を覚えることから始まります。2. 読み手の声が響き、目にもとらぬ早さで勢いよく札が飛んでいきます。

戦略を駆使して戦う! 畳の上の格闘技

創部4年目の「島根大学かるた会」は、小倉百人一首を使って競技かるたを行う団体です。「優雅なイメージがあるかもしれませんが、競技かるたは畳の上の格闘技と呼ばれるほど、スポーツ的な要素が強いんです」と、部長の西田さん言います。体を使う競技である反面、札の置き方や札の暗記、相手の取り方を見ながら作戦をたてるなど頭脳プレーも必要で、やればやるほど奥深さに気付かされるのだとか。試合中は真剣に、それ以外は学年関係なく和気藹々とした雰囲気も部の魅力のひとつです。今後は、学外でも合同練習会を増やすなどして、かるたを通じた交流の拡大を目指します。



全員で勝ちにいくための練習を!

練習は集中してしっかりと、練習が終われば先輩後輩の垣根なく楽しく。そんなメリハリの良さが特長の男子バスケットボール部。8月の西医体に照準を合わせ、現在はシュートやディフェンスを中心に基礎練習を重点的に行っています。「目指すは西医体ベスト4」と、主将の重橋さんは目標を掲げます。ベスト4まで勝ち上がるには3~4回の勝利が必要で、レギュラーメンバーだけだとスタミナ面で課題があります。「部員数が決して多くないので、全メンバーを上手く入れ替えながら、全員で勝ちに行きたい」と抱負を語る重橋さん。試合への出場チャンスがあることで、部員全員の士気向上も狙います。

出雲キャンパス

男子バスケット ボール部



1. 部員はプレイヤー14名、マネージャー10名です。マネージャーは女子バスケ部も兼務しています。週3回のハードな練習をこなしているからこそ、部員同士の仲も良いといいます。2. 先生に指導いただきながら、練習メニューをこなします。

島根大学支援基金より

島根大学支援基金では、皆さまからいただいたご寄附を地域や世界で活躍する人材育成のために活用させていただいております。何卒ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

■「島大会員」制度のご案内

●「島大会員」とは？ 島根大学支援基金へ5,000円以上ご寄附いただいた方であれば、どなたでもご加入いただけます。(永年会員)



島大会員証

●「島大会員」の特典

1) 郵送によるイベントのご案内、広報誌の送付(1年間)

2) 「島大会員のつどい」へのご招待

平成30年度は、松江の銘酒「豊の秋」醸造元の米田酒造さんにご協力をいただき、酒蔵見学と試飲会を開催しました。平成31年度も島大会員の皆様との絆をより深めていけるような内容のイベントを計画しています。



つどいの様子

3) 島大会員グッズの贈呈

年間のご寄附累計金額に応じて、島大オリジナルグッズ(カレンダー等)や本庄総合農場製の製品等を贈呈します。

詳しくは支援基金HP「島大会員・特典」をご覧ください。なお、お電話でもご請求も承っております。



詳しくは支援基金HP「島大会員・特典」をご覧ください。なお、お電話でもご請求も承っております。

(TEL 0852-32-6015)

支援基金HP

島根大学支援基金 寄附者一覧

島根大学支援基金は、皆さまからのご寄附を学生支援等に活用させていただきたく仕組みです。パンフレットは下記ホームページにも掲載しておりますが、郵送もいたしますので、お問い合わせください。

ご協力ありがとうございました。 ※平成30年11月16日～平成31年2月15日までに年度内寄附累計額5千円以上のご寄附をいただいた皆さま(五十音順・敬称略)

法人等からのご寄附 株式会社グローバル 有限会社土江本店

個人からのご寄附

江島和代	加藤巡一	佐山 一	大門節子	出口 顕	名取瑞樹	平川正人	前田香代	門城祐司	吉田和信		
秋重幸邦	伊藤幹夫	大上裕史	加藤文夫	三瓶良和	高木嗣夫	藤後耕一	野津 宏	平田 崇	増永二之	安江幸子	吉田 靖
堆 美保	伊東靖雄	大島和典	川口公男	篠塚英子	高木雄司	遠山文夫	服部泰直	廣瀬昌博	松浦晃幸	山内美香	吉見 顕
池上 孝	稲生田妙子	太田明夫	川向 誠	下手宰枝	高橋洋之	長井 篤	花山 莞	深谷光夫	松永寿巳	山崎文子	依田昌彦
石飛寿実夫	今西正樹	太田 泉	川本謙一	車野悦郎	多久和徹	長岡茂樹	浜田 太	福井 勇	松本隆宏	山崎稀嗣	渡部末富
石橋 剛	岩崎洋亮	大野純一	楠 伸治	新川 修	武田美和子	中島秀夫	瀧野富由美	藤田達朗	馬庭洋美	山根壽己	
石原 亨	植田英夫	小川 巖	高下直樹	杉原 明	竹谷 健	永田まち子	東 正博	藤田保治	三浦重紀	山本節子	
市川真澄	内田寛志	尾原美和子	酒井董美	杉本利嗣	伊達善夫	永野信吾	引野 圭	藤谷昌司	三谷重信	行武禎一	
伊藤文彦	馬田恒隆	加来洋一郎	坂本英治	州浜興康	谷口崇作	中村浩之	久恒良一	古川明信	棟石 均	横井昌治	

お問い合わせ/ TEL 0852-32-6015(総務課 支援基金担当) <https://www.fund.shimane-u.ac.jp/>

※ご寄附をいただいた皆さまの中で、「HP等への掲載を希望しない」とされた方は、掲載していません。

編集後記

春になり暖かな季節がやってきました。皆さまいかがお過ごしでしょうか。今号では、島根大学が参画している「地方大学・地域産業創生交付金事業」について特集しました。本学では事業の推進拠点として「次世代たたら協創センター」を設置し、若者に夢を与える「先端金属素材の聖地「島根」」のプロジェクトが始まります。また今回の裏表紙に掲載させていただきましたが、本学は今年度開学70周年を迎え、各種事業をする予定です。上記2つの事業については今後も随時掲載していく予定としておりますのでぜひご覧下さい。これら以外にも学生の活躍、先生の教育研究など皆さまに楽しんでいただけたような広報に一層取り組んでいきたいと思っておりますので今後ともよろしくをお願いいたします。

投稿のお願い

「広報しまだい」は、島根大学と地域の方々との相互理解を大きな目的としています。島根大学から地域に情報を発信してほしいこと、地域の方々からの島根大学に関する話題、島根大学に対する要望、その他ご意見、ご質問などをお気軽にお寄せください。ご投稿お待ちしております。

投稿先

〒690-8504
松江市西川津町1060
島根大学 広報戦略室
TEL.0852-32-6603
FAX.0852-32-6630

E-mail gad-koho@office.shimane-u.ac.jp
HP <https://www.shimane-u.ac.jp>

こちらからもアクセスできます



PRESENT

ご意見をいただいた皆さまの中から抽選で10名様に、島根農場で収穫・加工された「りんごジャム(1瓶)」をプレゼントします。

※当選者のお知らせは発送をもって代えさせていただきます。
※応募締切/2019年6月7日(金)必着





SAN-IN
GODO BANK

ごうぎんなび
g-navi.

地域の夢、お客様の夢をかなえる
創造的なベストバンク



山陰地方を応援するサイト

ごうぎんなび

暮らしに役立つ情報発信!

ごうぎんなび

検索



毎月更新!! 5つの情報をお届け

学ぶ

- ・金融コラム
- ・インタビュー
- ・子育て・医療・金融情報

楽しむ

- ・タウン情報
- ・2択アンケート

得する

- ・プレゼント

体験できる

- ・みんかぶ保険
- 保険選びは
ロボアドバイザーで
10秒で次世代の
保険選び

キャンペーン情報

- ・とってもお得な
キャンペーン情報
- ※提携企業様限定の場合
があります。



山陰合同銀行

2019年2月20日現在



プロバスケットボールチーム
島根スサノオマジックを
応援しよう!!



島根スサノオマジックの最新情報は…

島根スサノオマジック公式HP
<http://www.susanoo-m.com/>

島根スサノオマジック 検索

お問い合わせ先

島根スサノオマジック事務局
☎0852-60-1866
(平日10時～18時)



スッキリとした味わいで料理との相性も抜群!!

島根大学の芋焼酎 **神在の里**

生物資源科学部神西砂丘農場で栽培された
サツマイモから誕生した「芋焼酎」

●神在(かみあり)の里(720ml)は化粧箱に入った2本セットもあります。

■神在の里の取り扱い・お問い合わせは

島根大学生協同組合

〒690-8504 島根県松江市西川津町1060 Tel0852-32-6240
<https://www.shimadai.coop/>



新聞の
折り込みで
WEB
サイトで
フリー
ペーパーで

お仕事見つかる メリット

メリット 求人 検索

情報発信を通じて
「働きやすい街づくり」
に貢献します

株式会社メリット
松江市古志原5-2-43
TEL.0852-23-1749



広告募集

広報しまだいで、企業・団体様からの
広告を募集します。

島根大学企画広報課

TEL : 0852-32-6603

gad-koho@office.shimane-u.ac.jp



人とともに 地域とともに
国立大学法人
島根大学

SHIMANE
UNIVERSITY



ANNIVERSARY

1949 ▶ 2019

島根大学開学70周年

島根大学は2019年度に開学70周年を迎えます。

*shimadai



Vol.40

2019年4月発行 編集・発行 / 島根大学

〒690-8504 松江市西川津町1060

TEL(0852)32-6603

FAX(0852)32-6630

<https://www.shimane-u.ac.jp/>